



岩国市教育委員会



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 地域連携教育は 人を まちを 活性化する!!

文部科学省は、教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）の中で、次のように述べています。  
「社会の現状や変化を踏まえて2040年以降の社会を展望したとき、教育こそが、社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、人間中心の社会を支えるシステムとなる時代が到来していると言えよう。」岩国市教育委員会としては、一人一人の豊かで幸せな人生と、社会の持続的な発展を実現するための大きな柱として、子供を中心に据えた地域連携教育に力を注いでいきたいと考えています。本号では、地域連携教育を推進するための中核となる全体構想を紹介します。



地域連携教育推進の中心  
となるスタッフ4名です。



生涯学習課 主査  
阿部 高明



生涯学習課 社会教育主事  
江川 大介

岩国小…子供と大人の熟議  
でお互いの良さに気がきました



通津中…公民館講座をカリキ  
ュラムの中に取り込みました



よろしくお願いします。



学校教育課 指導主事  
中島 慎介



生涯学習課

いわくに地域連携教育アドバイザー  
大上 好久

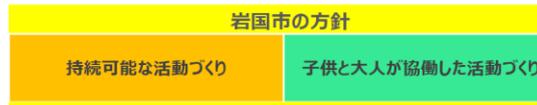
平田中…健康スポレク広場を学  
校で開催、子供と交流しました



宇佐川小…地域住民と子供が  
防災について一緒に学びました



### 1 岩国市の方針



### 2 取組内容 学校の取組例

- どんな子供を育てたいか、何のためにこの活動をするのかという目的の明確化と共有
  - ・熟議の工夫
- 地域学校協働活動の参観や参加をきっかけにした保護者世代の人材の確保
  - ・参観日、行事等の内容の工夫
- 社会教育施設や団体等との連携
  - ・学校運営協議会への参加
- 教職員、子供、地域住民による学校・地域連携カリキュラムのブラッシュアップ(スクラップ⇒ビルド)
  - ・活動後の振り返りの工夫
- 熟議による子供の声をきっかけにした組の実施
  - ・計画段階からの子供の参加・参画
- 地域学校協働活動を通じた時間・空間をともにしたつながりづくり
  - ・学校施設の有効活用
- 子供も大人も「楽しい」「またやってみよう」と思える活動の実施
  - ・子供の振り返りの重視
- 子供と大人がともに学ぶ場の創出
  - ・地域住民が学ぶ場の提供

地域連携教育だより「つながり」による広報活動で取組の共有



地域連携教育の魅力の一つに、“異質なものと出会いにより、新しいものが生まれる”ことが挙げられています。子供、教職員、地域住民(保護者)が、互いの個性を尊重しながら、思いや考えを伝え合い、「楽しかった、やってよかった、出会ってよかった」と思える熟議や地域学校協働活動を展開していきたいものです。



# つながり

大上好久

令和7年5月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 子供の幸せは 地域住民の幸せ 教職員の幸せ？

教育基本法には、第13条において「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携および協力に努めるものとする。」と規定されています。また、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編では、「学校がその目的を達成するためには、家庭、地域社会との連携を深め、学校内外を通じた子供の生活の充実と活性化を図ることが大切である。」と述べられています。

本号では、新1年生の学校生活の支援を、地域住民が献身的に行っている由宇小学校を紹介します。

### 1年生の生活支援が実現するまでの流れ

- 1 教頭から、電話で、代表の方2名に依頼
- 2 代表が、団体のメンバーに依頼し、参加人数や日程等を調整
- 3 教室等における生活支援を「更生保護女性会・手話サークル」 登下校の支援を「民生委員・児童委員」が担当

子供は、3日間だけでも、すごく成長します。毎年、驚かされるし、元気ももらいます。  
<地域住民>

子供が、静かに一生懸命に聞いてくれます。とても可愛いです。  
<地域住民>

自分の靴箱が分かるんだね。すごいね。傘はここに置いてね。  
<地域住民>

紙芝居や読み聞かせは大好き。とても楽しかったよ。  
<小学生>

学校のトイレは不安だったけど、使い方がわかってよかった。  
<小学生>

先生の話をよく聞いていたね。  
<地域住民>

子どもの安全がとても気がかりです。少しでもお役に立てればと思います。  
<地域住民>

連絡袋はちゃんと出したよ。  
<小学生>

生活支援を始めて3年目になるそうです。紙芝居をしている時、担任教師が連絡帳にある保護者の言葉に返事を一生懸命に書いていました。教師と地域住民のチームワークの良さを感じました。

入学式の次の日から3日間、優しく丁寧に接してもらい、子供たちは幸せです。電話一本で計画から実践まで地域の皆様の手で行われ、感謝しかありません。  
<森本 校長>

地域住民の優しい言葉かけときめ細かな動きが印象的でした。子供は学校生活に必要な基礎的基本的な生活様式を、短期間に確実に学び、安心した表情になっていました。その姿を見ている地域住民や担任教師は笑顔であり、子供の成長を支える喜びをともに味わっているようでした。「地域とともにある学校」そのものでした。





# つながり

大上好久

令和7年5月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 憧れの先輩との学びが 夢や郷土愛を育む!!

文部科学省は、「義務教育の在り方ワーキンググループ」の審議まとめ(令和6年12月)の「おわりに」で、次のように述べています。「教師や学校だけで何でもやろうとする、又は必要な支援や資源が不足し、教師や学校だけでやらざるを得ないことから生じる学校運営の『自前主義』から脱却し、コミュニティ・スクールの仕組みを生かすなどして、学校と保護者・地域住民・関係機関が、それぞれの役割を尊重した上で、信頼に基づいた対等な関係を構築し、次代を担う子供たちの育成という共通の目標の下、連携・協働した学校づくりが進むことを期待する。」

本号では、学校内外の教育資源を最大限活用し、わくわく感あふれる学校づくりに取り組んでいる「そお小学校」を紹介します。



### 「ようこそ先輩 in そお」…そお在住・出身の方の生き方・考え方にふれる

**第1回の講師は、高月寿龍(田坂祐輔)さん**  
日本舞踊を始めたきっかけや日本舞踊に対するお話をお聞きました。

**第2回の講師は、マジシャンのJONIO(保田純)さん**  
小学生時代の基礎基本の大切さのお話と楽しいマジックで、あっという間の1時間でした。

**第3回の講師は、神尾辰雄さん**  
神戸で飲食業、祖生で農業。今の仕事で大切にしている考えなどをクイズ形式で楽しくお話いただきました。

**第4回の講師は、林一馬さん**  
海外在住で、世界各地の多くの人と交流しながら仕事する醍醐味を語っていただきました。

**第5回の講師は、山崎哲也さん**  
祖生でスマート農業に専念しておられ、農業への思いを語っていただきました。

**第6回の講師は、霜川正幸さん**  
大学の名誉教授として、大学のことやこれまでに憧れた『夢』について楽しくお話いただきました。

え〜！ お〜！ 全然わからん。…(パチパチパチパチ) <子供>

世界にはいろいろな人がいて、暮らし方も違うんだな。<子供>

夢やなりたい自分(やりたい仕事)があることは、とても素晴らしいことなんだな。 <子供>

講師の選定や依頼は、学校ではなく、学校運営協議会委員(地域住民)が行っているそうです。地域住民の授業参加もあるようです。

「あの人のようになりたい」という『憧れ』は、「何かをしよう」という意欲を生みます。地域の先輩との直接的な関わりを提供することで、夢や希望を与え、地域を好きになり、地域を大切にする心が育まれていました。身近な存在が憧れの対象となっていました。



# つながり

大上好久

令和7年6月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 力のある体験は 人をつなぎ かかわりを深める!!

文部科学省は、“教育振興基本計画”（令和5年6月16日閣議決定）の中で、今後の教育政策に関する総括的な基本方針として、次のように述べています。「ウェルビーイングが実現される社会は、子供から大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。子供たち一人一人が、幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がり一人一人の子供や地域を支え、さらには世代を超えて循環していくという在り方が求められる。」



※ウェルビーイングの実現とは …多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなること

本号では、子供同士や地域住民とのつながりを深める“価値ある体験”を10年以上継続している杭名小学校を紹介します。

### 全校児童と地域住民で季節感を味わう 茶摘み・茶もみ体験

近所に住んでいます。たくさん  
とって下さいね。<地域住民>

今年初めて参加します。一緒に  
頑張りましょう。<地域住民>

おばちゃん、新芽は  
柔らかいね。ここにも  
あったよ。<子供>

準備してくださ  
った地域の皆さん  
に感謝し、丁寧  
につみましょう。  
<子供>

明るく素直な子  
供と話すとう元  
気がもらえます。  
<地域住民>

お茶を揉むのが上  
手になったね。熱  
いから気を付けてね。  
<地域住民>

いっぱいって、美味  
しいお茶を飲もうね。  
<地域住民>

毎年やっているの  
で、高学年はと  
ても上手です。私  
たちも顔見知り  
になり嬉しいです。  
<地域住民>

先輩は、上手です。  
優しく教えてく  
れるので嬉しい  
です。<子供>

「お茶会」が楽し  
みです。お茶も  
お菓子も美味し  
いのです。特に  
あんこが… <子供>



学校運営協議会委員(地域住民)  
が呼びかけ、学習支援ボラン  
ティア中心に毎年行っているよ  
うです。新しい参加者もあるよ  
うです。

校庭に茶畑があります。新芽の成長やお世話される地域の方の姿  
を頻繁に見ています。身近な素材で身近な方と、会話で心を通わ  
せながら活動が流れていました。教職員も汗をかきながら一つにな  
ってました。心をつなぐ「価値ある体験」が展開されていました。





# つながり

大上好久

令和7年6月15日発行

Tel:29-5210

Fax:21-3456

## 修成小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

### 図書室が 地域住民と子供の 夢の空間に !!

文部科学省は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編＜第4章第1節2の(5) 家庭や地域の人々との連携＞の中で、次のように述べています。「特別活動は、各種の活動の機会を捉えて、多様な人々へと交流を広げるようにするとともに、誰とでも温かい人間的な触れ合いができるようにすることなどに配慮して、指導計画を作成することが大切である。…例えば、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の枠組みを積極的に活用することも望まれる。」

本号では、図書室の掲示物を地域住民が中心となり、子供とともに作成している修成小学校を紹介します。

#### 図書室の掲示物を 子供とともに作る わらべサロン(地域団体)の活動 【修成小学校】

上手だね。作るの楽しいね。 <地域住民>

メダカを作りました。川を泳いでいるみたいです。 <子供>

今月のテーマは「お山のほそみち」です。5・6年と一緒に作りました。子供たちはタブレットで動物の写真をながら工夫して作っていました。素晴らしいです。 <地域住民>

飾りを作るの大好きです。楽しいです。 <子供>

材料は、廃材や包装紙、お菓子の包み、人工の桜葉など工夫して集めています。SDGsです。 <地域住民>

「十五夜お月さん」の歌は少し寂しいね。 <子供>

わらべサロンの皆さんの掲示に合わせて、童謡を歌う会では、毎月、子供たちと一緒に歌を歌っています。とても楽しいです。 <地域住民>

わらべサロンの皆さんと子供たちの熱意が作品から溢れています。 <教職員>

高学年になると凝った作品になります。すごいです。 <地域住民>

高く泳ぐや～鯉のぼり♪♪

豊の波と～雲の波～重なる波の～♪♪

わらべサロンの皆さんが、毎月テーマを決めて、作成しています。材料の準備も含め、すべて自主的・自発的に行っていました。

「こども家庭庁」が目指していることは「こどもまんなか社会の実現」といわれています。子供の思いや考えを聞きながら制作し、心を込めて歌う。学校施設を活用した、地域の多様な人との楽しい活動が、子供の居場所となり、自分が自分でいられる場所となりました。





# つながり

大上好久

令和7年7月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



通津小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## もち米が 子供と地域住民の 心をつなぐ !!

文部科学省は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編<第4章第2節の(6)>の中で、次のように述べています。「総合的な学習の時間は、保護者をはじめ地域の専門家など外部の人々の協力が欠かせない。この時間を豊かな学習活動として展開していくためには、地域の人々を積極的に活用することが必要である。教員だけでは展開できない多様な学習を行うことができたり、多様な大人との『対話的な学び』から児童が成長できたりするという大きな意義を持つ。」

本号では、地区社会福祉協議会と連携し、学校の授業と地域の活動を連動させ、地域に開かれた実践計画<学校・地域連携カリキュラム>を作成・実践している通津小学校を紹介します。

### 学校と地域の協働活動 田植え・稲刈り(学校) → 餅つき・とんど焼き(公民館・地区社協)

【令和7年6月】田植え

昨年までの水田が使えず、米作りが中止の危機でした。子供たちの「田植えがしたい」、教職員の「無くなるのは辛い」という願いを受け、自治会連合会会長や学運協のメンバーが立ち上がり実施できました。ありがたい限りです。子供達には感謝の気持ちを持って、最後まで頑張って楽しんでほしいです。<武政校長>

2~3本ずつ植えるのが、上手になったね。  
<地域住民>



土を平らにして、印のところにしっかり植えてね。<地域住民>

【令和6年10月】稲刈り

大きくなったな。これが餅になるのだな。<子供>

土がねばねばです。ちよっと気持ち悪いけど、楽しいです。<子供>

結ぶのはとても難しいです。<子供>

【令和6年12月】餅つき

皆さんと、ぜんざいやきな粉餅にして食べるのが楽しみです。<子供>



手を怪我しないように、できるだけ下を刈ってね。<地域住民>

結び目を押さえるようにするといいよ。<地域住民>

5年生が植えて、刈り取ったもち米が餅になりました。<地域住民>



校長先生の最初の言葉が、「毎週月曜日「スイートピーの会」の皆さんが各教室に花を飾ってくださる等、学校は地域に常に支えられています。」という感謝の言葉でした。もち米作りも、生育の様子が観察できるように学校から歩いて5分の水田が用意され、子供が稲刈りして収穫したもち米は、公民館を会場とした地区社会福祉協議会共催の「餅つき」、学校を会場とした「とんど焼き」とつながっています。米作りは、子供の体験や学びの深まり、地域住民の生活の潤いなど、通津地域に住む人々のウェルビーイングの高まりを演出しています。





小瀬小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 公民館と 学校と 地域が 協働活動でつながる !!

文部科学省は、令和3年度公民館に関する基礎資料の中で、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年12月中央教育審議会答申)を取り上げ、次のように述べています。「公民館については、“社会に開かれた教育課程”の実現に向けた学校との連携を強化するとともに、地域学校協働活動の拠点としての役割や中山間地域における“小さな拠点”の中核となる施設としての役割や“地域運営組織”の活動基盤となる役割も期待される。」

本号では、公民館の講座を学校の教育課程と積極的に連携させ、地域の活性化を促している小瀬小学校を紹介します。



### 社会教育(公民館活動等)と 学校教育を融合させた 地域交流活動

【R7 家庭教育講座 リズムにのって 歌と楽器で楽しく!】

【R5 家庭教育講座 絵本の読み聞かせ!】

♪明日がある 明日がある  
る 明日があるさ〜 ♪

絵本作家の“松田もとこ”です。絵本の楽しさを一緒に味わいましょう。

音楽に合わせて体を動かすのが楽しかった。<子供>

読み聞かせが終わり、子供も地域住民も全員が感想や質問を伝え合い、学びを深めていました。素晴らしいです。

ギターを初めて触り嬉しかったです。音がとても綺麗でした。<子供>

親父バンド「ブルーリバー」は小瀬地区出身の方も多く、子供も地域の皆さんも大喜びでした。公民館が毎年、学校を会場に楽しい講座を実施しています。

### 【R7 地域探検!】 【R7 手話の学習!】

公民館の石本さんに、歩きながら小瀬の歴史を教してもらいました。とても楽しかったです。<子供>

毎週火曜日、朝の学習を地域の方としています。手話も習いました。少しずつ上手になりました。<子供>

「どこの地域もそうだと思いますが、小瀬っ子は地域の宝として本当によくしていただいており、ありがたい限りです。」と榎原校長がしみじみと語っていました。地域との協働活動により、幅広いつながりが生まれ、興味や関心も広がり・深まり、生涯にわたって学び続ける楽しさや、多面的な見方・考え方が育まれる可能性を感じました。

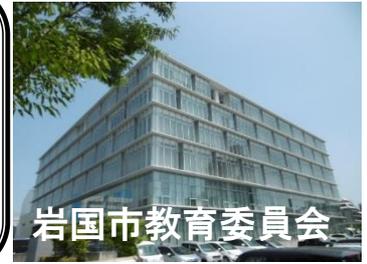




# つながり

大上好久

令和7年8月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



岩国市教育委員会



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 若者層に 将来の 夢や希望を描かせる!!

文部科学省は、「義務教育の在り方ワーキンググループ」の審議まとめ(令和6年12月)の「義務教育の意義を踏まえたこれからの学校教育の在り方に関する基本的な考え方」で、日本型学校教育の「強み」を、誇りをもって一層伸ばすと同時に、「弱み」を次のように捉え、補うという視点の重要性を述べています。「…全員を同じ“正解”に導くことを目指し、過度に同調圧力を高めている傾向があること。…子供たちの幸福度は世界と比べ低く、自己肯定感や自己有用感、自ら未来を切り拓いていく力や意識を高めていく必要があること。」

本号では、「地域連携教育」について、岩国 YMCA 保健看護専門学校 保健看護学科 1年生対象に行った講義における学生を紹介します。 ※ 学生は、地域連携教育を小中高と体験しています。

### 学生から見た 地域連携教育の魅力や心に残る活動とは!

【講義の内容】 ① 地域連携教育って何? ② 何をやるの? ③ どのように進めるの?



④ これからの地域連携教育の 向かう方向とは? <受講生は29人 アンケート回収率100%>



日本人は自己肯定感が低く、自分もその中の一人だと思っていたけれど、先生に「そんなことはない!」と励まされ自信ができました。覚えていないだけで、実は小さい頃から、地域の人たちといっぱい関わって支えてきてもらったんだと、今になって思いました。しっかり感謝したいです。看護師・保健師になり、地域の方たちを支えていく立場になり、より良い地域をつくるために貢献できればと思いました。<学生>



グループワークで、活動の写真を分類しました。子供も含め地域のたくさんの人が話し合い、意見を述べ合う場面があるのは本当に大切だと思います。<学生>



昔、いろいろな体験をした時「何か楽しいことができる。」という気持ちでしたが、まさかこんなに自分の成長につながっているとは、とても驚きました。小学校4年生の時に“そろばん”を地域の人に教えていただく授業がきっかけで、4年間通い続けて一段まで取得できました。今も自信になっています。<学生>

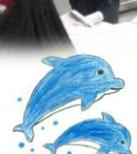
ゆかたの着付けや魚のさばき方、点字など今後の人生に大切なものだけど、学校では学べないものばかりで地域の人のおかげを感じました。<学生>



コミュニティ・スクールは、子供たちの生活や成長に重要な役割を持っていると同時に、若い世代から高齢者まで、幅広い人々をつなげて、地域を元気にすることができると感じた。私たち一人一人は小さいけれど、できることから参加できるようにしたいと思う。<学生>



自分にはない異質な人との出会い、経験したことのないことを経験することで、新しい発見・感動・心地よさを味わうことができると感じた。今まで自己肯定感が低いと思って生きてきたつもりだったけれど、この授業で自己肯定感を深めていけたかなと感じたし、自己肯定感が深まることで、他者肯定感も自然と生まれたなと思った。併せて、自分の地域の良さに改めて気付くことができたと思う。社会に出て看護師となれたら、地域に何か還元していける、そんな人になりたいと思う。<学生>



19歳前後の学生が、目を輝かせ、自分の体験や思いを語り合っていました。地域と学校が連携・協働した活動が、VUCA(ブーカ)時代<変動性、不確実性、複雑性、曖昧性>を生き抜く力になっていると感じました。若者層が将来に対して夢や希望を描くことのできる社会の実現が、地域連携教育の役割の一つです。





# つながり

大上好久

令和7年8月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



周東中学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 子供と大人との対話で 地域が元気に！

文部科学省は、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた 学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進施策について(中教審 答申)」<平成27年12月>で「これからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿」として次のように述べています。「地方創生の観点からも、学校という場を核とした連携・協働の取組を通じて、子供たちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る」「学校を核とした地域づくり」を推進していくことが重要である。

本号は、地域課題の解決に向け、生徒主体の活動を展開している周東中学校を紹介します。



### 「地域の課題や地域貢献」について 地域住民と共に考える 学級活動・生徒総会

#### 【学級活動 6月】

中学生の皆さんが、真剣に話し合っていて素晴らしかったし、皆さんと直接話せてとても嬉しかったです。<地域住民>

地域の皆さんへは環境整備等で、とてもお世話になっています。地域の方への感謝を込めて、恩返しできることを考えました。<中学生>

ふるさと祭りなどのイベントへの積極的参加や進んで笑顔で挨拶をすることがあがっています。<中学生>

「クラスごとではなく、地区別のグループで話し合ったら、活発な討議になるのでは!!」という生徒会長の提案で実現しました。生徒が本気で地域の良さを見つけたり、課題の解決方法を考えたりしました。生徒の底力を感じました。<教頭>

#### 【生徒総会 7月】

先程、トイレに行った時、ドアを開けてくれた優しい生徒がいました。さりげない親切が本当に有り難いものです。地域のイベントでも”何かをしなければならぬ”ではなく、少し手を差し伸べてもらえるだけで十分です。<地域住民>

生徒会執行部が、クラスごとの意見をうまく引き出し、司会進行しました。生徒は、質問を受けた時、仲間と知恵を出し合っていてしっかりと返答していました。地域貢献への思いの高まりを感じました。<生徒会担当>

周東地域では、周東中山湖マラソンや食肉フェア等のイベントがあります。中学生の皆さんのボランティアは本当に有難いです。これからもよろしく願いします。<地域住民>

周東地区は、6つ(本年度より5)の小学校で、それぞれの地域の方とかかわりを深め、中学校へと進学してきます。人は与えられた愛情の量が多ければ多いほど自立が早いと言われています。具体的な活動を通して地域の方とのつながりを深めることで、自己肯定感、他者肯定感が高まり、地域貢献への意欲につながっていると感じました。





# つながり

大上好久

令和7年9月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



麻里布小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 防災・減災は 生命を守る地域の課題 !!

国は、令和4年3月に「第3次学校安全の推進に関する計画」を閣議決定しています。その中で、「防災教育については、消防署と学校の連携のみならず、地域に密着して『共助』の役割を担っている消防団、自主防災組織、自治会やまちづくり組織等の地域コミュニティの活動と、学校における防災教育を関連付けることや、防災・減災に専門性を持つ大学・NPO 等が、学校における避難訓練をはじめとする防災教育に参画するなど、地域の実情に応じた防災教育を進めることも重要である。」と述べています。

本号では、育友会「おやじの会」と学校が連携して、防災訓練を実施している麻里布小学校を紹介します。

### 消防署や自衛隊の協力を得て 地域が中心となり実施する防災学習(防災訓練)

消火器を初めて使いました。真っすぐ水が飛んで良かったです。<小学生>

的をめがけて、レバーをぐっと握って下さい。<消防署員>

真っ白で何も見えないよ。でも、下は見えるよ。<小学生>

1.2.3.4...上手だよ。次の人に替わる時、間を開けないように！<消防署員>

煙は上にたまります。かがんで下を進んで下さいね。<消防署員>

思ったより簡単だった。上手く行って良かった。<小学生>

VR体験、子供は本当に好きですね。地震・津波の怖さを少しでも感じてくれば...<自衛隊員>

すご〜い。家が揺れて壊れていく。恐ろしいよ〜。<小学生>

コロナで中断しましたが、消防署や自衛隊、保護者や会員、先生方の協力で開催できました。子供が防災に関心を持ち、少しでも防災力を高めてくればと思います。<おやじの会 会長>

災害発生時に、隊員を乗せて現地に急行します。丈夫にできています。<自衛隊員>

ペットボトルは、穴一つ空ければ、給水器になります。<自衛隊員>

賞味期限 2030年の非常食「わかめご飯」とても美味しかったです。<小学生>

へ〜。ふたを開めると水が止まるんだ。<小学生>

段ボールで、丈夫な椅子やベッドが、簡単にできるんだな。すごい。<小学生>

安心して安全な学校づくり・社会づくりは、すべての人々の願いです。災害時に、自分と周囲の人の命を守ることができるようになるには、知識と能力と判断力が必要です。麻里布地域に住む皆さんと先生方が、防災・減災に専門性を持つ方と一緒に、未来を担う子供たちの笑顔を守ろうとする姿が心に残りました。





# つながり

大上好久

令和7年9月15日発行

Tel:29-5210

Fax:21-3456



東小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 小学生と 高校生が 涼しい学校で 楽しく学ぶ!!

文部科学省は、平成16年度(2004年度)から、「放課後子供教室推進事業」を実施し、全国で約17,000教室(R4年調査)の「放課後子供教室」ができました。放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、子供たちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等を実施しています。子供たちの社会性、創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子供たちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実を図っています。岩国市内には、自主財源での運営を含め13教室あります。

本号では、東小学校区の「ひがしっ子ホームルーム」を紹介します。

### 放課後子供教室が 小学校と連携・協働して 夏休みの「宿題を早くすませよう」作戦を実施!

高校生ボランティアは、丸付けばかりでなく、問題も作って子供に提供してくれます。素晴らしい活躍に感謝しています。 <実行委員>

学校で学習すると集中できます。たくさん学習できます。 <小学生>

子供たちは、楽しい雰囲気の中で頑張っていました。後半、やや集中力が続かない低学年もいました。 <地域住民>

4年生の男の子たち、みんなでヒントを出し合い「さすが」「凄い」と雰囲気がよく楽しそうでした。良い機会を作っていただきありがとうございます。 <保護者>

子供は、家で一人でやる姿とは違います。友達と一緒に楽しそうです。 <保護者>

プリントづくりを頑張りました。作ったプリントを一生懸命やってくれて良かったです。また明日頑張ります。 <高校生>

小学生に説明するのは難しかったけど、たくさん質問に来てくれて嬉しかった。 <高校生>

優しく、丁寧に教えてくれるので、とてもよく分かります。安心して学習できます。 <小学生>

夏休みに入っすぐの5日間にわたり実施していました。高校生ボランティア11名、地域住民や保護者も多数参加していました。1日70人を超す子供たちですが、ボランティアの大活躍もあって、自分のペースでしっかりと学習していました。

放課後や週末等の「子供の居場所」になっています。小学生が高校生の優しさを感じたり、高校生が人の役に立つ喜びを感じたり、大人が感謝の気持ちを持ったり、東地区の皆さんの“学びを通じたつながり”が一段と深まっていました。





二次元コードから  
閲覧可能です。

## 公民館と学校が 地域住民に 学びの場を提供 !!

文部科学省は、“令和3年度 公民館に関する基礎資料”の中で、「公民館については、近年、館数が減少し、実態として利用者が固定化しているところも見受けられるとの指摘もある。…より効果的な事業展開に向け、今後は、特に、住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割や、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割……『社会に開かれた教育課程』の実現に向けた学校との連携を強化するとともに、地域学校連携活動の拠点としての役割を強化することが求められる。」と述べています。

本号では、公民館が中心となり、岩国西中学校と連携して、地域住民のつながりを深めた「みんなで！わくわくコンサート」を紹介します。

### 学校を会場とし、教職員の専門性を生かした企画を実現した 岩国市中央公民館 北河内分館！



夏休みの子供の遊び場やクールシェルターとして、音楽を楽しむ活動を企画しました。中学校には、音楽室を提供いただいたり、講師として二人の音楽教諭に協力いただいたり、とても感謝しております。<社会教育指導員>

日本のアニメや欧米の映画の曲など子供の興味に合わせた選曲をしたり、参加型の活動にしたり、プログラムを工夫しました。<音楽教諭>



鈴やタンバリン、ベル、ツリーチャイムなどたくさんの打楽器を演奏できて嬉しかったです。<小学生>

音楽に合わせて、手遊びするのは、とても楽しいようです。とてもありがたい時間です。<保護者>

子供や地域の方に音楽を楽しんでもらって良かったです。<音楽教諭>

楽しい雰囲気の中で、ゆったりと時間が流れ、子供も居心地がいいようです。親から離れ、自分から人にかかわる姿に驚きました。<保護者>

企画・運営を公民館が担い、参加対象を乳幼児親子ばかりでなく、子供から高齢者まですべてとしています。乳幼児、小学生、中学生、地域住民・保護者、教職員、スタッフ含め約30名が、音楽を通して会話を弾ませていました。参加者のつながりの広がりや深まりが生まれ、異年齢が集う活動の魅力を感じました。





# つながり

大上好久

令和7年10月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 地域と学校が一体となって 防災・減災教育 !!

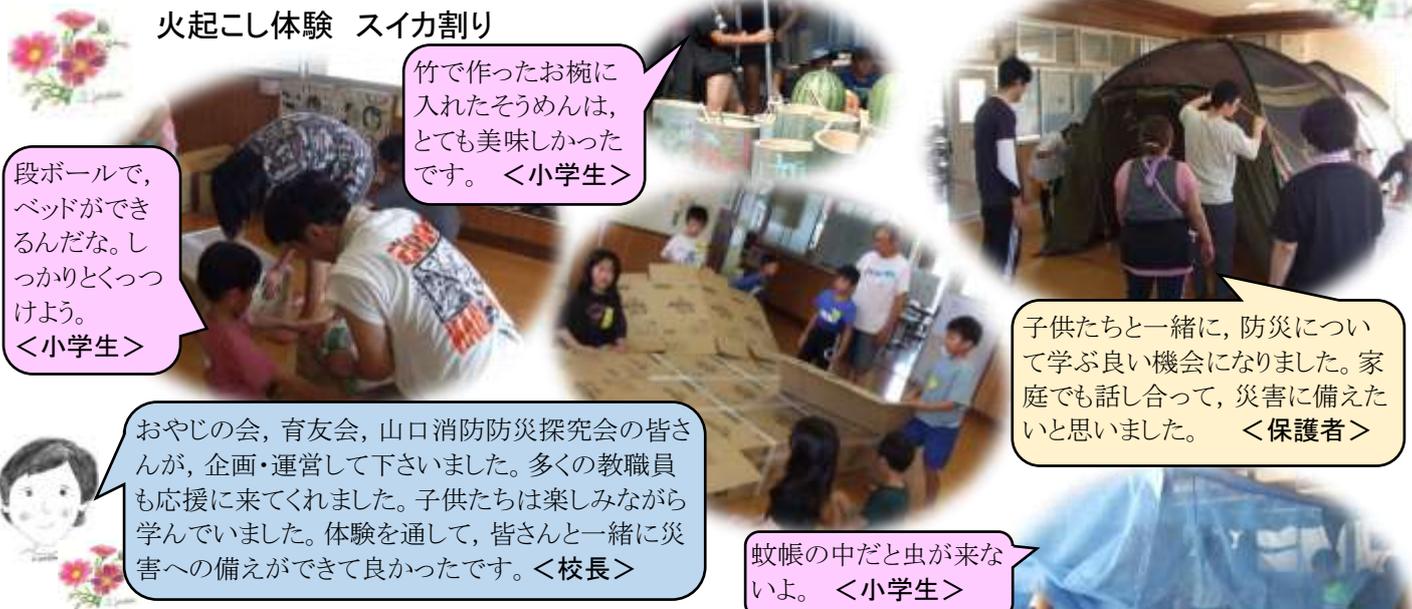
令和4年3月に「第3次学校安全の推進に関する計画」が閣議決定されています。その中で、学校における教育手法の改善について、次のように述べています。「学習指導要領において、“社会に開かれた教育課程”の実現を図ることとされる中、安全教育を進めるに当たっては、地域学校安全委員会や学校警察連絡協議会等の設置・活用、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)や地域学校協働活動などの学校と地域の連携・協働の仕組みの活用、民間企業・団体等が提供する教育プログラムの活用など、様々な教育資源を活用することが重要である。」

本号では、育友会や市民活動団体と連携し、「防災キャンプ」を実施した米川小学校を紹介します。

### 南海トラフ地震を想定した 一泊二日の防災キャンプ <会場は学校！>

【1日目】 そうめん流し 学校かくれんぼ 防災グッズ作り(ベッド, テント, 蚊帳)

火起こし体験 スイカ割り



段ボールで、  
ベッドがで  
きるんだな。  
しっかりくっ  
つけよう。  
<小学生>

竹で作ったお椀に  
入れたそうめんは、  
とても美味しかったです。  
<小学生>

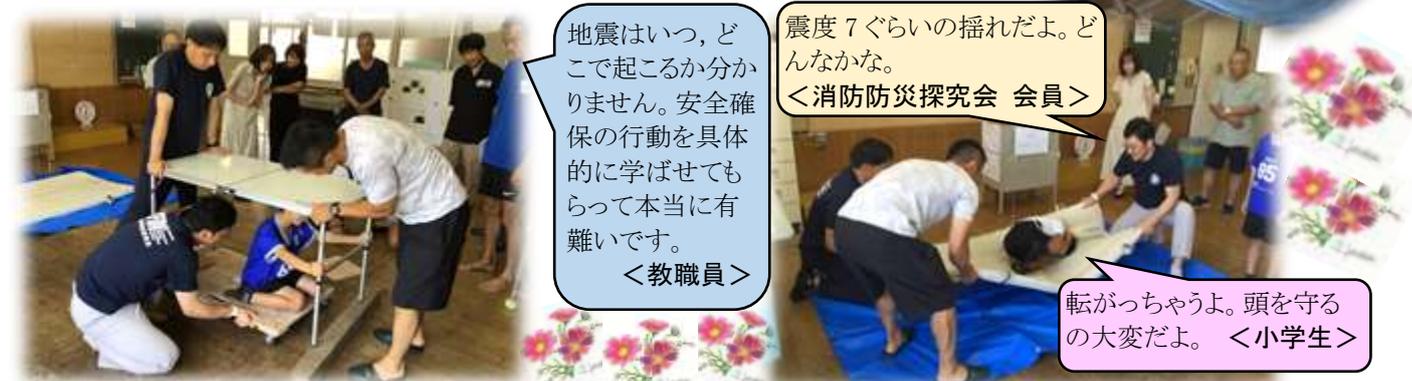
子供たちと一緒に、防災につ  
いて学ぶ良い機会になりました。家  
庭でも話し合っ  
て、災害に備え  
たいと思いました。  
<保護者>

おやじの会、育友会、山口消防防災探究会の皆さんが、企画・運営して下さいました。多くの教職員も応援に来てくれました。子供たちは楽しみながら学んでいました。体験を通して、皆さんと一緒に災害への備えができて良かったです。<校長>

蚊帳の中だと虫が来ないよ。  
<小学生>

【2日目】 シェイクアウト訓練(まず低く、頭を守り、動かない…を身につける)

家庭でのルール作り 携帯トイレとエアーマット 揺れ体験…



地震はいつ、どこで起こるか分かりません。安全確保の行動を具体的に学ばせてもらって本当に有難いです。  
<教職員>

震度7ぐらいの揺れだよ。どんなかな。  
<消防防災探究会 会員>

転がっちゃうよ。頭を守るの大変だよ。  
<小学生>

米川小おやじの会の活動は、20年以上も続いており、数年前から育友会等と連携して地域防災に視点を当てた活動としたようです。単に生命を守る技術を学ぶのではなく、同じ地域に住む大人と子供が、寝食を共にしながら、一緒に防災力を高める中で、地域を愛し地域を担う意識が自然に育まれていると感じました。





# つながり

大上好久

令和7年11月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



そお小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 地域住民と教職員の 白熱した意見の交流が… !!

文部科学省は、第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(令和6年6月)の中で、次のように述べています。「国民の生涯学習を推進するための基盤となるのは、学校教育である。子供は学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら、変化の激しい複雑な社会を生き抜くための資質・能力を磨き、自分らしい生き方を実現していくことを、社会として支えなければならない。その際、教員という立場を含め、学校現場に民間からの人材が参画することや、学校現場と企業との人材交流等により、それぞれの人材が得た経験が、教育に活かされるような仕組みの導入も必要である。」

本号では、教職員と地域住民が融合したユニット型研修を実施している「そお小学校」を紹介します。

### 算数(たし算とひき算の筆算)の授業参観と グループ協議



地域の方と一緒にするユニット型研修も回を重ね、本日も6名参加いただきました。教職員とは違う発想でご意見をいただいたり、教職員や子供の良さを見つけていただいたり、有意義な研修会になってきました。有難いです。 <校長>



一人で学習するのは、大変だと思うけど、よく頑張っていると思います。タブレットの使い方もよく知っていて素晴らしい。 <学校運営協議会(学運協)委員>



僕は、タブレットを使って数え棒を動かすと、説明しやすくなるな。 <小学生>

タブレットの教材での操作がいいのか、実物の数え棒を使って動かしながら理解するのがいいのか。子供に選ばせたら意欲的に学ぶのではないのでしょうか。 <学運協委員>

子供たちが、自分なりの考えをもって、友達に話せるように工夫しました。先生方や地域の方がたくさん意見を下さり有難かったです。 <授業者>

一人学びの後、ペアをつかって説明し合うと、より考えが深まると思います。 <教員>

今日は子供たちが4人で学習を進めていましたが、人数が多くなった場合、一人一人に先生の支援が出来るのか?という疑問が残りました。 <学運協委員>



地域の方や先生方に、一人一人が自分で考えて問題を解こうとしている、とほめてもらい嬉しかったです。 <小学生>

正直なところ、何をどう見たらいいのかわからない自分がありました。けれど、丸つけに行ったりして接することもあり、成長したなと思い、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。 <学運協委員>

複式・少人数学級の強みの一つに、自分の思いや考えを納得するまで交流できることがあります。子供ばかりでなく、地域住民と教職員が、授業の中で子供を成長させる方法を真剣に議論していました。「子供一人一人は、かけがいのない大切な存在である。」という共通の思いを持っていると強く感じました。





二次元コードから  
閲覧可能です。

### 学校と家庭と地域が ともに学び 支え合う !!



文部科学省は、“教育振興基本計画”（令和5年6月16日閣議決定）の中で、「ウェルビーイングが実現される社会は、子供から大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。子供たち一人一人が、幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供や地域を支え、さらには世代を超えて循環していくという在り方が求められる。」と述べています。



※ウェルビーイングの実現とは …多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、  
地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなること

本号では、子供たちの学ぶ学校という舞台上、世代を超えた交流（学び）を展開している「神東小学校」を紹介します。

### 保護者・住民の参加型授業(国語・算数)と 地域サロン等とコラボした「ふれあい・焼き芋パーティー」

どちらかに立場を決めて話し合います。自分の考えを伝えたり、相手の意見に質問したりして、考えを深めましょう。『あなたの朝食は、パンですか。ご飯ですか?!』<担任>

パンは、忙しい朝でも素早くできるので便利です。<小学生>

子供と大人が同じ立場で、話しました。とても楽しかったです。<保護者>

計算や図形の問題など頭の体操になりました。子供と大人が話し合っ一つの答えを出すことも新鮮でした。<地域住民>

全校児童6人で、準備し進行しました。「だるまさんがころんだ」「じゃんけん列車」とも皆さんが喜んでくれてよかったです。“みんなの神東サロン”の皆さんの「宝さがし」もとても楽しかったです。<小学生>

チーム神東(神東に住んでいる人、また神東小や地域を愛している人みんな)の「つながり」をより強く、より広げていくこと、みんながワクワクしながら、一緒に行事や活動を創っていくことを大事にしています。<校長>

宝探しの景品です。みかんをどうぞ。<地域住民>

4月 スタート会

4月 イチゴ狩り

5月 サロンで交流

年3~4回 マイヤーレモン栽培の手伝い

校長先生の言葉…「地域の方から『久しぶりに知り合いに出会えて嬉しかった。』『楽しかった〜と孫が帰ってきました。』等々たくさん言葉をいただきました。」 地域の方の言葉…「学校が機会を設けてくれたお陰で、60名近くが楽しいひと時を過ごせました。」 子供も地域も元気になる「地域とともにある学校」となっています。





# つながり

大上好久

令和7年12月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 子供を真ん中に据えた 1年間の設計図 !!

国は、「こども基本法」<令和5年4月1日施行>の基本理念にのっとり、「こどもまんなか社会」の実現を目指し、「こども施策に関する大綱(こども大綱)」を定めています。その中で、「こども・若者と対等な目線で、対話しながら、こども・若者とともに社会課題を解決していくことは、こども・若者の自己実現を後押しするとともに、主体的に社会の形成に参画する態度を育み、ひいては民主主義の担い手の育成に資する。」と述べています。 ※ 学校・地域連携カリキュラム……学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したもの(1年間の設計図)

本号では、子供の思いや願いが反映された「学校・地域連携カリキュラム」を作成・展開している「由宇小学校」を紹介します。

二次元コードから 誰でも 何度でもコメントすることで 常にリニューアル!

みなさんの かんそうや  
いけんをおしえてください。

タブレットの  
カメラでよみこむと  
かんそうやいけんが  
つたえられるよ!



保護者と地  
域ボランティ  
アの皆様には  
チラシで別の  
二次元コードを  
配付しています。

子供たちの頑張る姿を見ることや、交流することが楽しいのでやっています。もくもく学習、草取り <地域住民>

子供たちのコメントは楽しいです。子育ての時期はあっという間に過ぎてしまうので、できる範囲で、ボランティア活動に参加します。<保護者>

職員室前に掲示しました。子供たちに、今の学年だけでなく、次の学年で何が行われているのか、学習がどのように行われているのかわかってもらい、期待感を高めるためです。また、子供自身が学習をどう受け止めているのかを知りたいと思い、この方法を始めました。<校長>

楽しかったことや保護者や地域の皆さんへのお礼も書きます。みんな読んでくれるかな。<小学生>

自分のタブレット端末で、二次元コードを読み取ったら、何度でもコメントできるからとても便利です。<小学生>

いいね!

「地域の皆さん、いつもありがとうございます。私は本が大好きです。だからもっと本を読んでください。」…〇〇さんは本の読み聞かせが大好きなんだな。<小学生>

昨年「もくもくルームで、6年生は低学年に教えてばかりだったので、6年生も勉強できる時間を作ってほしい。」というコメントがあり、今年は改善されました。書いたことが実現すると嬉しさが増します。<小学生>

子供を活動の中心に据え、どんな思いや考えが芽生えてきたかを上手くキャッチしています。コメントを通じて子供同士、子供と保護者・地域住民が心を通わせ、居心地の良い空間を生んでいます。Plan(計画)-Do(実行)-Check(評価)-Action(改善)のサイクルが、子供中心に回転し、生き生きとしたカリキュラムとなっています。





二次元コードから  
閲覧可能です。

### 地域のために 自らの意思で ボランティア清掃 !!

文部科学省は、中学校学習指導要領 解説「総合的な学習の時間編」〈平成29年告示〉の中で、「生徒が自ら設定した課題を解決する過程では、地域の様々な人との関わりが生じることも考えられる。そうした学習活動では、『自分の力で解決することができた』『自分が学習したことが地域の役に立った』『これからも地域づくりに参画したい』などの、課題の解決に取り組んだことへの自信や自尊感情が生まれ、日常生活や社会への参画意識も醸成される。」と述べています。

本号では、生徒会活動を中心に、地域の絆を深めるための活動を継続している灘中学校を紹介します。

### 郷土愛あふれる 瀬戸内海環境保全大作戦 青木海岸清掃ボランティア！

昨年度から、運営側として参画する生徒も出てきました。前日準備や当日のお世話を頑張っていました。今年は80名以上の生徒が清掃に自主的に参加してくれました。〈担当教諭〉

本日はありがとうございます。灘地区社会福祉協議会会員や中学生スタッフが、オレンジ色の帽子をかぶっています。分からないことがあったら聞いてください。〈地域住民〉

小さく折って袋に入れると沢山入るなど、清掃のコツを色々教えてもらって嬉しかったです。〈中学生〉

流木などを船に積むのは力がいらいます。中学生が手伝ってくれて大助かりです。〈地域住民〉

いきますよ～。  
せ～の、よいしょ。上手く渡せて良かったです。〈中学生〉

滑らすように押してくれるかな。せ～の、よいしょ。ありがとう。〈地域住民〉

疲れたけど、砂浜や海岸線を見るととてもきれいになっていて、気持ちですっきりしました。〈中学生〉

90分間でしたが、とてもきれいになりました。灘中生徒は素直でよく働きました。有難かったです。〈地域住民〉

週休日にもかかわらず、全校生徒の1/3以上が参加し、一生懸命に汗を流していました。主催者も健康や安全に配慮しながら、中学生も含め地域住民みんなで自分たちの海岸を美しくしようとする意識の高さを感じました。学校や家庭で育んだ郷土愛が、自ら進んで清掃するという実践活動に結びついているなど思いました。





通津小学校



通津中学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 地域の伝統を 小中学生が 引き継ぐ !!

文部科学省は、小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」で、地域の持つ教育力を活用することの教育的効果について、次のように述べています。「学習活動を地域の中で行ったり、その成果を保護者も含めた地域の人々に公開することにより、児童が社会の一員であることを自覚したり、児童の学習意欲が向上したりする。次には、学習活動を通して、児童が地域の人々と親密になったり、地域の教育機関の利用に慣れたり、地域の自然や文化財等に関心をもったり、地域の伝統行事等に参加したりするようになり、児童が地域への愛着を高め、豊かな生活を送ることにつながる。さらには、郷土を創る次世代の人材育成や持続可能な地域社会の形成にもつながる。」

本号では、地域の伝統芸能を授業の中に組み込み、広く公開している通津小・中学校を紹介します。

### 民俗芸能保存会と小中学校が 連携・協働して実施した「獅子舞」と「田浦相撲(でんぼずもう)」

二人で動きを合わせたり、リズムよく演奏したりできて、よかったです。 <小学生>

442回目を迎える相撲大会に、たくさんの小中学生の皆さんに参加してもらい感謝しています。 <地域住民>

中学生は、行司、弓取り、土俵入りなどのスタッフや力士として、1年生の希望者が参画しました。他の生徒は翌日の文化祭の準備を学校でしました。授業日としたため、全教職員が手分けして業務にあたりました。 <中学校 校長>

昨年、小中合同の学校運営協議会で、学校地域連携カリキュラムを見直し、獅子舞の演舞を中学校から小学校6年生に変更しました。練習の成果を発揮し、田浦相撲のオープニングとして、多くの皆さんの前で見事な演舞を披露しました。 <小学校 校長>

学年ごとのトーナメントを勝ち進んで、今日の本選を迎えました。ドキドキしました。 <小学生>

行司の役は難しいけど、衣装を着けると身が引き締まります。 <中学生>

もちまき、今日一番の楽しみでした。上手にとろうと、みんな一生懸命でした。 <小学生>

休憩をはさみ2時間以上続く一連の活動、小学校のグラウンドにある緑に包まれた相撲場、子供と教職員と地域住民の一体感。“ゆったりと流れる時間”と“穏やかな空間”と“心の通う仲間”の三つ間(ま)は、学校と地域が連携・協働して、子供の成長や大人の幸福感を願ううえで、とても大切なものだと感じました。





# つながり

大上好久

令和8年1月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 地域ならではのよさを 体験的に学ぶ !!

文部科学省は、中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」で、地域や学校の特色に応じた課題について、次のように述べています。「全ての地域社会には、その地域ならではのよさがあり特色がある。古くからの伝統や習慣が現在まで残されている地域、地域の気候や風土を生かした特産品や工芸品を製造している地域など、様々に存在している。これらの特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、生徒が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれる。」

本号では、地域のよさを体験的に学び、様々な方法で発信している玖珂中学校を紹介します。

### 全学年が 総合的な学習で楽しく学んだ 玖珂地域のよさを 文化祭で発表



日頃から挨拶やお話をして、地域の人たちと助け合っ  
て素晴らしい町をつくっていきたい。 <中学生>

「頑張れ」「凄いな」など励ましの言葉を  
たくさんもらいました。改めて地域の方  
の優しさに気がきました。 <中学生>

1年生は、クラス対抗ウォー  
クラリー大会(約10km)で、  
玖珂地域を回り、魅力を探  
り、感じたことを文化祭で発  
表しました。 <中学生>

2年生は、地域の方を講師に迎え、ちぎり絵  
や手話、玖珂太鼓、神楽などの文化を体験  
し、学んだことを発表しました。 <中学生>

ちぎり絵は、自分だけの作品を作り上  
げ、手話では言葉はなくても気持ちが  
伝わることを学びました。 <中学生>

太鼓を教えてもらったこと自体が嬉しか  
ったし、文化祭で神楽を多くの人に見  
てもらって嬉しかった。 <中学生>

3年生は、学びの集  
大成として、玖珂の魅  
力を絵と写真で構成し  
て展示したり、地域の  
歴史を劇にし「鞍掛合  
戦記」として上演したり  
しました。 <中学生>

「地域の方々に声をかけてもらって嬉しかった」「地域の方と話せて嬉しかった」…活動を終えた中学生の感想の多くは、人間的なふれあいそのものに心を動かされたものでした。『自分がやる以上に緊張しています』…太鼓の指導者がつぶやいていました。カリキュラムの中で、人間的な成長を育む価値ある総合的な学習です。





柱野小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 体験の継続が 地域と学校の歴史をつくる !!

文部科学省は、小学校学習指導要領 解説「総合的な学習の時間編」〈平成29年告示〉の中で、「外部との連携の必要性」について、次のように述べています。『地域の素材や地域の学習環境を積極的に活用したり、児童が地域の一員として地域の人々と共に活動したりすることで、学校と地域との互恵性が生まれ、息長く継続的な外部連携を実現している取組がある。これらの取組は、学校を地域に開くことにもつながり、保護者や地域との信頼関係を築く大きな要因となると共に、学校を核として地域社会も活性化していく“次世代の学校・地域”を創生していくことにもつながる。』

本号では、約40年にもわたり子供と地域住民が、伝統文化を守り続けている柱野小学校を紹介します。

### 社会福祉協議会等と学校が 連携・協働して実施している しめ縄飾り作り！



本校の特徴的な活動の一つです。地域の方の全面的な協力のもとに本校の伝統となっています。本年度から、子供のより主体的な活動となるように材料集めから取り組みました。 <校長>



今年も立派なしめ縄飾りができました。来年もよろしくお祈りします。 <小学生>

〇〇さんのミカン畑です。葉っぱを付けたまま切り取って下さいね。 <地域住民>



ウラジロとりは初めてです。山は急だし、先まできれいなウラジロ探しは大変でしたが楽しかったです。 <小学生>

毎年作っているのので、だいぶ上手になりました。 <小学生>

今は、自作の道具を使って3人で縄を編みます。 <地域住民>



名前は何というのかな。 <地域住民>

そうかね。僕のお祖母ちゃんによく知っているよ。私がね… <地域住民>

僕の名前は、〇〇です。 <小学生>

私が小学生の時も作りました。作り方は変化していますが、地域の方に丁寧に教えてもらったことを今でも覚えています。我が子も体験できて有難いです。 <保護者>

「故郷にあるものを使って作る喜び、長年伝わってきた技術の重みを感じながら、しっかりと習い、できるようになってください。」という校長先生の言葉から始まりました。地域住民のフレンドリーさ、保護者の熱心さ、教職員の感謝の心が溢れていました。“地域とともにある学校づくり”“学校を核とした地域づくり”がそこにありました。





河内小学校



二次元コードから  
閲覧可能です。

## 子供の声に耳を傾け 子供の「やりたい」を形に !!

文部科学省は、「義務教育の在り方ワーキンググループ 審議のまとめ」(令和6年12月)の中で、“目指すべき義務教育・学校教育の姿及び取組の方向性”について、次のように述べています。『多様な背景や特性を有する一人一人の子供たちの状況を理解し、日々の変化や成長を見取り、励ますとともに、他者と関わり合いながら成長する子供たちの指導・支援を行う教師の役割は、どのように社会が変化してもデジタル機器やオンライン等では代替えすることのできない、かけがいのないものである。』

本号では、教職員と地域住民が、子供の思いを生かす学びを展開している河内小学校を紹介します。

### 河内小を盛り上げながら、地域を盛り上げる、「明るいあいさつプロジェクト」!

#### 【9月 熟議「河内を盛り上げる挑戦(プロジェクト)とは」】

4月に今年度の全校で取り組むチャレンジ目標に“あいさつ”を入れました。1学期末の学校評価や熟議で「明るいあいさつはもう少し」と地域の方や保護者から知らされた子供たちは、『どうして?頑張っているつもりなのに。何とかしたい!』と、この活動を始めました。<校長>



元気なあいさつを増やすために考えました。地域の方のご意見をお願いします。<小学生>

地域で、あいさつしても、返ってこない時があって…

なるほど!ではどうすればいいかな…<小学生>

仕事をしていると聞こえない時もあるんだよ。ごめんなさい。<地域住民>

#### 【10月 河内小サミット「じゃ何をする」】



いい考えですね。〇〇するととってもいいかもね。<地域住民>

子供なりによく考えているね。低学年にも丁寧に教えていて優しいね。<地域住民>

読みながら階段を上がると、明るく元気なあいさつができそうです。<小学生>

#### 【12月 プロジェクト実行「壁画・がんばりカード」】

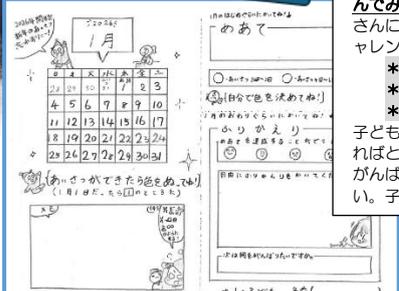
##### あいさつがんばりカードについて (お知らせとお願い)

高学年の児童は、12月から児童が取り組んでいる「あいさつがんばりカード」に、保護者・地域の皆さんにも取り組んでみてもらいたいと考えています。どうしたら南河内の皆さんに取り組んでもらえるかを学級で考え、以下の3つにチャレンジしてみるになりました。

- \*がんばりカードを自分の自宅の近所に配る。
- \*公民館や郵便局などが集まる場所に置いてもらう。
- \*各家庭に持ち帰って取り組んでもらう。

子どもたちの活動の様子のひとつを知っていただく機会になればと思っています。保護者の皆様・地域の皆様、ぜひこのがんばりカードを手にとって、一緒に取り組んでみてください。子どもたちの思いが届きますように…。

令和8年1月から



『明るく元気なあいさつで みんなもハッピーこうちしょうがっこう(河内小学校)!!』…文字は全校みんなが、ビックリマークは校長先生が書き込みました。<小学生>

地域住民は、稚拙ながらも一生懸命考える子供たちの思いに寄り添い、教職員は子供の思いや願いを何とか実現させようと伴走支援に徹していました。子供たちは、苦労しながら思いを形にできた達成感や成就感を味わっていました。地域と学校の一体感が、生きる力の源となる自己肯定感や他者肯定感を育てていました。

